

# 繼續事業評価調書

【林道整備事業】

農政環境部農林水産局治山課

## 投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	農政環境部農林水産局 治山課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	治山課長 船田 穰 (林道係長 谷口 靖雄)	内線	4128 (4134)
------	-------------------	---------------------	---------------------------	----	----------------

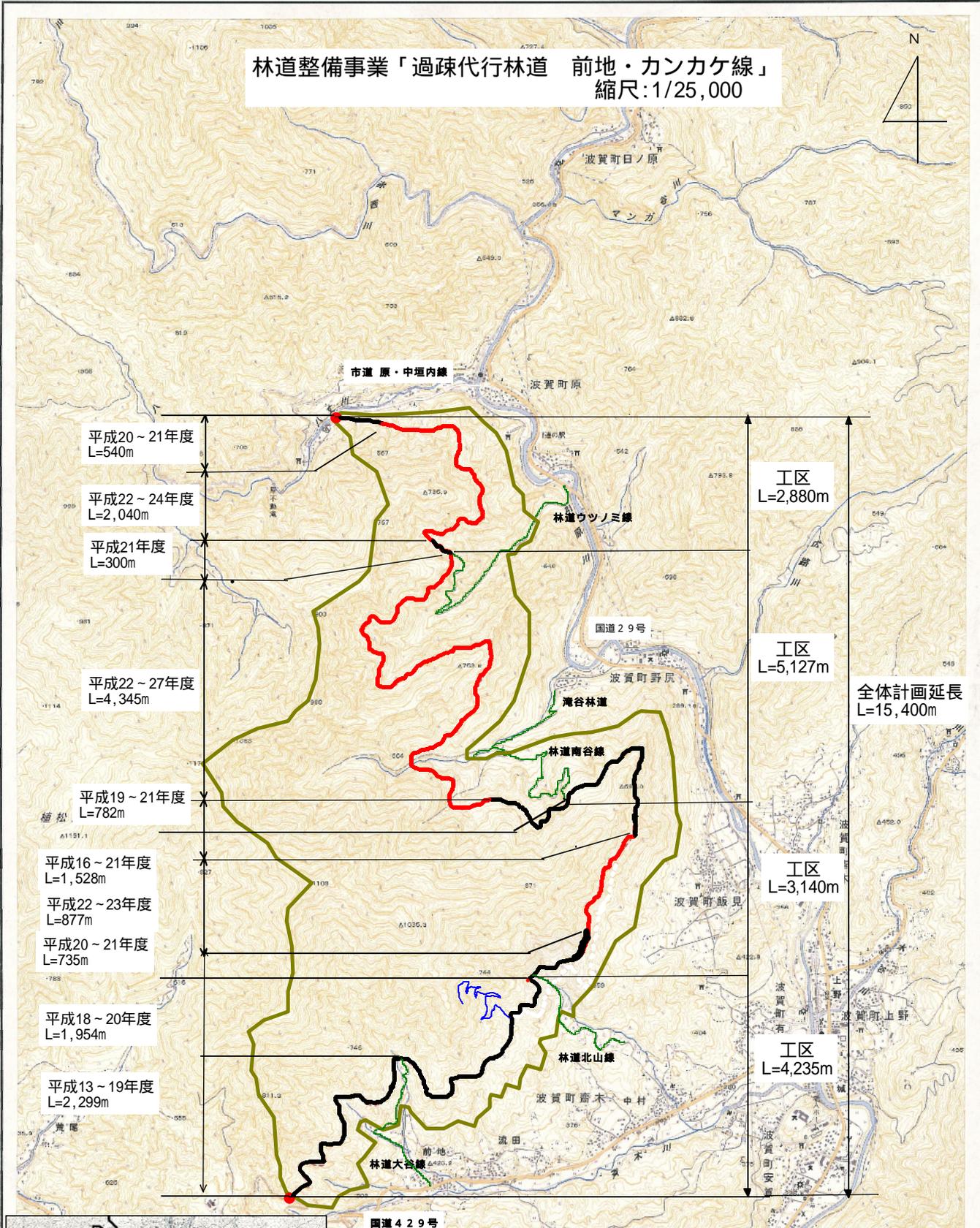
事業種目	林道整備事業	事業名		事業区間		総事業費	約40億円
		過疎代行林道整備事業		前地カンカケ線		内用地補償費	-億円
所在地		事業採択年度	着工年度	完成予定年度	進捗率 (内用補進捗率)	42% (-%)	
宍粟市波賀町齋木～宍粟市波賀町原		H12	H12	H27	残事業費	約23億円	
事業の目的				事業内容			
<p>当該地域は 694ha の広大な人工林で、このうち既に 665ha(96%)が 35 年生以上に成長し、木材として利用可能であり、間伐による収入が期待できる。</p> <p>また、周辺の作業道が順次整備されており、林道整備済み区間の一部では、既に間伐した木材の搬出も始まっている。</p> <p>今後、これらの人工林がますます成熟していく中、より一層林業生産性を向上させ、森林資源の有効利用を図るとともに、森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、国道429号から市道原中垣内線を結ぶ林内路網の幹線となる森林管理道を整備する。</p>				<p>林道整備：延長15,400m [ 残延長7,262m ] 幅員4.0m</p> <p>負担割合：国庫補助事業（国50%、県50%） 県単独事業（県100%）</p> <p style="text-align: center;">（ 総事業費に占める割合 ）</p> <p style="text-align: center;">国庫補助事業 約82% 県単独事業 約18%</p>			
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<p><b>1 不透明な原木供給動向</b></p> <p>ロシア政府の丸太輸出関税の段階的引上げ（実質的な輸出制限の強化）と中国の急激な木材需要増加等のため、わが国の原木輸入量は激減し、原木供給は先行き不透明な状況となっている。</p> <p>このため外材製材業者の中には、ロシア丸太の製材をやめ原料を国産材へ転換するなどの動きが見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロシア政府輸出関税の引上措置 H18(6.5%) H19(20%) H20(25%) H22(80%予定)</li> <li>国産材需給率の増加 H16(18.4%) H19(22.6%) H20(24%)</li> </ul>						
	<p><b>2 木材価格の低迷と木材生産方式の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木材価格の低迷による収益の悪化を改善するため、間伐材の搬出・販売を行い主伐および再造林に至る森林整備の循環を確立することが重要となっている。</li> <li>間伐材の生産方式が、架線集材から搬出コスト低減や作業の効率性、安全性を備えた高性能林業機械による車両系集材に変化しつつある。</li> </ul>						
<p><b>3 地域での取組</b></p> <p>「(協)しそ森の木」(平成14年7月26日設立)による素材生産、製材、建築を一体化したコスト縮減と山元へ利益還元等の取組が活発化しており、地元材のPRをはじめ、山元とユーザーとの橋渡し役として幅広い活動を展開している。</p>							
<p><b>4 利用可能な人工林資源の増加と間伐材の有効利用</b></p> <p>当該林道沿線では、木材として利用可能な 35 年生以上に成長している人工林が 96%となり、この成熟した森林資源の活用が喫緊の課題となっている。</p>							
進捗状況	全延長15.4kmの内、既に6.3kmが供用開始され、さらに平成21年度末時点には1.8kmが供用開始予定。						

評価視点		評価結果の説明	
(1)必要性		<p>1 当該林道沿線には木材として利用可能な成熟した人工林資源が豊富であり、その有効活用には、幹線となる当該林道の整備は不可欠である。</p> <p>2 低コスト林業経営には森林の団地化、施業の機械化・集約化とあわせ林道を幹線とした路網整備が不可欠であるが、当該林道の沿線では既に低コスト経営団地(9箇所:470ha)による低コスト林業経営への体制整備(1)が図られており、当該林道の継続実施が必要である。</p> <p>3 現在、同一市内で整備中の県産木材供給センターへの原木安定供給(2)に必要な林道である。</p> <p><b>【参考】</b></p> <p>1 宍粟市の低コスト生産体制の整備          素材生産業者等による高性能林業機械の導入(H15～H21:11事業体で21台導入)          森林所有者による作業道の整備(H20 L=31,802m)          森林組合による低コスト生産のために必要な人材(施業プランナー)の養成等</p> <p>2 県産木材供給センターへの安定供給          県産木材供給センター(宍粟市一宮町、H22稼働、原木供給量12万6千m<sup>3</sup>/年)          当該林道は、起点から県産木材供給センターまで11km</p>	
(2)有効性・効率性		<p>1 費用便益比 B / C = 1 . 2 1 (事業採択時 1 . 3 5 )</p> <p>2 地元から早期完成への要望が強く、事業継続への協力体制も整っている。</p>	
(3)環境適合性		<p>1 地形に沿った線形の採用や現地発生土の土砂を有効利用する工法の活用により、切盛土のバランスをとった環境保全に配慮した計画</p> <p>2 板柵工等に地域産の間伐材を有効利用</p> <p>3 小動物の生息環境に配慮したスロープ付きの排水施設を設置</p> <p>4 林道工事現場から採取した現地植生の種子を含む表土の法面緑化への利用</p>	
(4)優先性		<p>1 当該林道沿線では低コスト木材生産体制の整備が整いつつあり、成熟した人工林資源の有効活用のため、早急に整備すべき路線である。</p> <p>2 各谷沿いにある既設市営林道との横断的なネットワーク化を図るとともに作業道と連携した路網整備を促進することで、高性能林業機械による効率的な伐採・搬出が可能となるため、当該林道の整備が急がれている。</p> <p>3 H22年度県産木材供給センターの稼働に向け、立地条件のよい当該林道は、早急に整備すべき路線である。</p> <p>4 宍粟市では作業道開設量、木材生産量も年々増加しており、当該林道沿線においても今後、5年間で167haの間伐施業が計画されている。</p> <p>このことから、利用効果の早期発現が期待でき、効率的な木材搬出の基盤として当該林道整備の優先性は高い。</p>	
再評価の結果	継続	左の理由	<p>林業生産性の向上とともに成熟化する人工林の適切な森林整備を進めるため、当事業を継続して完成させる必要がある。</p>

## 事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	過疎代行林道整備事業	路線・河川名	前地・カンカケ線						
<p>（進捗状況を色分けした平面図を添付）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><th colspan="2">凡 例</th></tr> <tr><td style="width: 20px;"></td><td>H12～21</td></tr> <tr><td style="width: 20px;"></td><td>H22以降</td></tr> </table> </div> </div>				凡 例			H12～21		H22以降
凡 例									
	H12～21								
	H22以降								
	<b>事業進捗状況・予定</b>	<b>整備効果</b>							
全体	<b>H12～27年度【事業費＝40億円】</b> 森林管理道 W=4.0m L=15,400m 利用区域面積 896ha	H16～H20までの実績 主伐           - ha 間伐           60.3ha 造林           - 保育（下刈等） ha 作業道       1,300m							
過去 5年間 （実績）	<b>H12～21年度【事業費＝17億円】</b> 森林管理道 W=4.0m L=8,138m	H22～27年度【事業費＝23億円】 森林管理道 W=4.0m L=7,262m							
今後 6年間 （予定）		主伐           - ha 間伐           167ha 造林           - 保育（下刈等） ha 作業道       2,000m							

林道整備事業「過疎代行林道 前地・カンカケ線」  
縮尺:1/25,000



平成20～21年度  
L=540m

平成22～24年度  
L=2,040m

平成21年度  
L=300m

平成22～27年度  
L=4,345m

平成19～21年度  
L=782m

平成16～21年度  
L=1,528m

平成22～23年度  
L=877m

平成20～21年度  
L=735m

平成18～20年度  
L=1,954m

平成13～19年度  
L=2,299m

工区  
L=2,880m

工区  
L=5,127m

全体計画延長  
L=15,400m

工区  
L=3,140m

工区  
L=4,235m



国道429号

S=1:25,000

凡例			
利用区域面積	896ha	事業費 (億円)	
再評価対象路線	平成21年度まで施行済区間	8,138m	
	平成22年度以降施行予定区間	7,262m	
接続する林道	支線林道	-	

